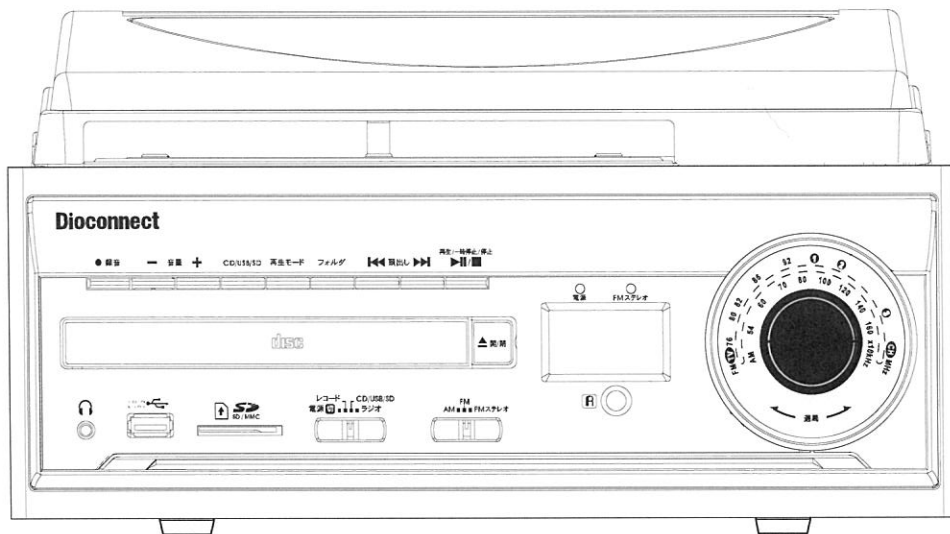


AucSale

SD/CD/RECORD AUDIO SYSTEM

Diocconnect DR-260



取扱説明書

■ご使用前に

この度は、本製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

正しくご使用して頂くために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読み頂き、機能を十分にいかして正しくご愛用下さい。お読みになった後は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお役立て下さい。

※本書の内容を無断で転載や複写をしないでください。

※記載の外観および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

※本書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。

※当社では常に製品の品質の改善を行っており、お客様のご購入時期によりましては同一製品の中にも多少の差があるものがございますがご了承ください。

※本書の内容につきましては、将来予告なしに変更することがあります。

目次

はじめに	2
安全上の注意	3
使用上のお願い	7
ディスクの取り扱い/用語	8
各部名称	10
リモコンを使う	13
スピーカーについて	14
接続する	15
レコード針カートリッジ	16
電源コードを接続する	17
基本操作	17
音楽CDを聴く	19
MP3/WMA CDを聴く	21
USBメモリを接続する	22
SD/マルチメディアカードを使用する	23
様々な再生機能	25
・音楽CDの再生モード	25
・MP3/WMA CD、SD/MMC/USBの再生モード	25
・プログラム再生	26
・曲情報を表示する	26
レコードを聴く	27
音楽CDから録音する	29
レコードを録音する	32
ラジオを聴く	34
音楽ファイルをコピーする	35
音楽ファイルを消去する	37
音楽ファイルを検索する	38
トラブルシューティング	39
主な仕様	41
アフターサービスと保証書	42

お使いになる前に必ずお読みください。

はじめに

取扱説明書について

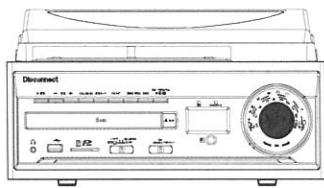
本取扱説明書は、本製品の操作方法について説明しています。

セット内容

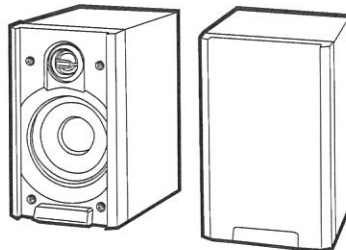
本製品のパッケージ内には以下のセット内容が含まれます。ご確認ください。

※イラストと実際の形状は、若干異なる場合があります。

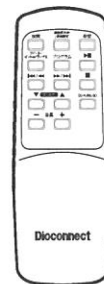
プレーヤー本体



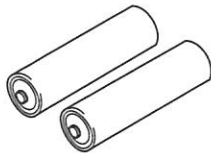
スピーカー (×2)



リモコン



リモコン用乾電池 (×2)



取扱説明書 (本書)



お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意

○ご使用前に、あなたの健康と安全を守り、火災や感電などによる事故を未然に防ぐために、この「安全上の注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。

次の警告表示は、注意事項を守らなかった場合におこりうる事故の程度を表します。



警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(※1)を負うことが想定されるもの



注意

取り扱いを誤った場合、使用者が傷害(※2)を負うことが想定されるもの、または物的損害(※3)の発生が想定されるもの

※1：重傷とは、失明やケガ、火傷（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期にわたる通院を要するものを指します。

※2：傷害とは、治療に入院や長期にわたる通院を要さないケガや火傷、感電などを指します。

※3：物的損傷とは、家屋、家財、および家畜やペットなどにかかわる拡大損害を指します。

次の記号は、その注意事項の内容を表します。



禁止 (してはいけないこと) を表します。

具体的な禁止内容については、記号の中、もしくは付近にイラストや文章にて表します。



指示する行為の強制 (必ずしなければならないこと) を表します。

具体的な禁止内容については、記号の中、もしくは付近にイラストや文章にて表します。



注意 (警告含む) を表します。

具体的な禁止内容については、記号の中、もしくは付近にイラストや文章にて表します。



警告

異常や故障したとき



電源プラグ
を抜く

- 煙が出たり、変なにおいがする場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。
- 内部に水や異物が入ってしまった場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。
- 本体を落としたり、破損した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。
- 電源コードが傷んだり、電源プラグが異常に熱くなった場合は、電源プラグが冷えたことを確認し、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。

上記の問題が発生した場合は、電源プラグを抜いた後、サポートセンターにご連絡ください。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意



警告

設置をされるとき



水濡れ禁止

- 屋外や浴室、シャワー室など、水がかかる恐れのある場所には設置をしないでください。火災や感電などの原因となります。



指示

- 電源プラグは、家庭用交流100Vのコンセントに接続してください。交流100V以外を使用すると、火災や感電などの原因となります。



禁止

- ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かないでください。本体が落下してケガの原因となります。



上乗せ禁止

- 上に物を置かないでください。金属類や、花瓶、コップ、化粧品などの液体が入った場合、火災や感電の原因となります。重いものなどが置かれて落下した場合、ケガの原因となります。



警告

ご使用になるとき



分解禁止

- 修理、改造、分解をしないでください。火災や感電の原因となります。点検や調整、修理はサポートセンターにご依頼ください。



異物挿入禁止

- ディスクトレイなどから異物を入れないでください。金属類や紙などの燃えやすい物が内部に入った場合、火災や感電などの原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、本製品には一切触れないでください。感電の原因となります。



禁止

- 電源コードについて
 - ・傷つけたり、延長するなどの加工をしたり、加熱をしないでください。
 - ・引っ張ったり、重たいものを載せたり、挟んだりしないでください。
 - ・無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしないでください。これらは火災や感電の原因となります。
- SDメモリーカードは乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談下さい。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意



警告

お手入れについて



禁止

- 電源プラグの刃や刃の取り付け面にゴミやホコリが付着している場合は、電源プラグを抜いて、ゴミやホコリを取ってください。
電源プラグの絶縁低下によって、感電の原因となります。



注意

設置をされるとき



禁止

- 温度の高い場所に置かないでください。
直射日光の当たる場所や閉め切った自動車内やストーブのそばなどに奥と、火災や感電の原因となります。また、部品の劣化や破損の原因となります。
- 湿気、油煙・ホコリの多い場所に置かないでください。
加湿器、調理台のそばや、ホコリの多い場所などに置くと火災や感電などの原因となります。
- 風通しの悪い場所に置かないでください。
内部温度が上昇し、火災の原因となる場合があります。
 - ・壁に押し付けしないでください。
 - ・押し入れや箱の中など、風通しの悪い場所に押し込まないでください。
 - ・テーブルクロスやカーテンなどを掛けたりしないでください。
 - ・じゅうたんやふとんの上に置かないでください。
 - ・仰向け、横倒し、逆さまにしないでください。



指示

- 移動させる場合は、電源プラグや外部との接続コードを外してください。電源プラグを抜かずに運ぶと、電源コードが傷つき、火災や感電などの原因となることや、接続コードなどを外さずに運ぶと、本製品が点灯してケガの原因となることがあります。



注意

ご使用になるとき



引っ張り禁止

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張って抜かないでください。電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき、火災や感電などの原因となります。電源プラグを持って抜いてください。



濡れ手禁止

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意



電源プラグ
を抜く

- 旅行などで長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。万一故障してしまった場合、火災の原因となることがあります。



禁止

- ディスプレイに手を入れないでください。指を挟み、ケガの原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは本体内で高速回転するので、飛び散ってけがや故障の原因となります。
- 電源を入れる前には音量を最小にしてください。また、接続しているテレビなどの機器の音量を最小にしておいてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。接続したアンプやスピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 音量を上げすぎないようにご注意ください。大きな音量で長時間続けて音声を聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- ヘッドホン・イヤフォンを使用する場合は、音量を上げすぎないようにご注意ください。大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- リモコンに使用している電池について
 - ・極性〔(+)と(-)〕の方向を間違えて挿入しないでください。
 - ・充電・加熱・分解・ショートさせたり、火の中に入れてたりしないでください。
 - ・電池に表示されている【使用推奨期限】を過ぎたり、使い切って残量の少ない電池はリモコンに入れたままにしておかないでください。
 - ・新しい電池と古い電池、種類の違う電池を一緒に使わないでくださいこれらを守らないと、液もれや破裂などにより、火傷やケガの原因となることがあります。もし液体が皮膚や衣類についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。液体が目に入った場合は、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。器具に付着した場合は、液体に直接触れないで拭き取ってください。
- ご使用になるとき電源コードやスピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、過熱したりしないでください。火災や感電などの原因になることがあります。
- 本製品の上に重量物を載せたり、本来の目的以外に使用しないこと。ケガや故障の原因になります。
- 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。ケガや故障の原因になります。
- ケーブルは足などに引っかからないように配置してください。また、上に重量物を載せたり、熱器具のそばに配線しないでください。足に引っかけると、ケガや接続機器の故障の原因になります。また、ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。



指示

- 他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くに他のテレビやラジオなどの機器がある場合、雑音が入ることがあります。その場合は下記のように対処してください。
 - ・他のテレビやラジオなどの機器からできるだけ離してください。
 - ・他のテレビやラジオなどの機器のアンテナの向きを変えてください。
 - ・コンセントを別々にしてください。

お使いになる前に必ずお読みください。

使用上のお願い

取り扱いに関して

- 引っ越しなどで遠くへ運ぶ場合は、傷がつかないようにキャリングバックに入れてから、毛布などでくるんでください。
- 殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはげたりするなどの原因となります。
長時間で使用になっていると本体が多少熱くなりますが、故障ではありません。
- 普段使用しない時は、必ずディスクを取り出し、電源を切っておいてください。
- 長時間使用しない時は、機能に支障をきたす場合がありますので、時々電源を入れて、使用してください。

置き場所に関して

- 本製品は水平な場所に設置してください。ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所で使用しないでください。ディスクが外れるなどして、故障の原因となります。
- 本製品をテレビやラジオ、ビデオなどの機器の近くに置く場合には、本製品で再生中に、画像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一、このような症状が発生した場合はテレビやラジオ、ビデオなどの機器から離してください。

お手入れに関して

- キャビネットや操作パネル部分ボなどの汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 汚れがひどい場合は、布を水で薄めた中性洗剤に浸し、よく絞ってから拭き取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジンやシンナーは絶対使用しないでください。変色したり、塗装がはげたりするなどの原因となります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。

結露（露付き）に関して

- 結露はディスクや本製品を傷めます。下記をよくお読みください。
- 結露は以下の状況などでよく生じます。
 - － 本製品を寒いところから、急に暖かいところに移動した時。
 - － 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなど冷風が直接あたる場所で使用した時。
 - － 夏季に、冷房のきいた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動して使用した時。
 - － 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋で使用した時。※結露が生じそうな場合は、本製品をすぐにご使用にならないでください。
- 結露が生じた状態で本製品を使用すると、ディスクや部品を傷めることがあります。ディスクを取り出し、本製品の電源プラグをご家庭のコンセントに接続し電源を入れておくと本製品が暖まるので、2～3時間程度で水滴をとります。または、コンセントに接続しておくことで結露が生じにくくなります。

日本国内専用

- 本製品を使用できるのは日本国内のみです。外国では電源電圧等が異なりますので使用することができません。

ディスクの取り扱い／用語

本製品で再生できるディスク

本製品では、下記の種類のディスクを再生することができます。

用途	ディスクの種類	記録内容
再生専用	音楽CD	音 声
再生専用	CD-R/RW	音 声

- 上記のディスクは再生できません。
- 上記のディスクでも、規格外のディスクや、傷や汚れ、記録状態や記録機器、記録ソフトの特性等により、再生できないことがあります。
- 円形以外の特殊な形状(カード型等)のディスク、紙やシールの貼られたディスクは再生できません。
- パソコン用のデータCD-ROMなど音楽用ではないディスクは使用しないでください。異音の発生などスピーカー、アンプの故障の原因となります。
- 複製制限機能(コピーコントロール機能)のついた音楽CDの中には、正式なCD規格に合致しないものがあります。それらは特殊なディスクのため、本製品で再生することができない場合があります。

注意

- ディスクの種類・記録されたデータ・設定・ディスクサイズ・形式・記録状態等によっては、操作や再生などが行えない場合があります。

ディスクの取り扱い／用語

レンタルCDについて

- CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどののりがはみ出していたり、剥がしたあとがあるもの、また、飾り用のシールなどを貼ったものはご使用にならないでください。CDが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

複製制限機能（コピーコントロール機能）の ついた音楽CDの再生について

- 複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽CDの中には、正式なCD規格に合致しないものがあります。それらは特殊なディスクのため、本製品では再生できない場合があります。

ディスクの取り扱いについて

- ディスクについた指紋やホコリなどの汚れは、画像の乱れや音質低下の原因となります。柔らかい布で、ディスクの中心から外側に向かって軽く拭き取り、いつもきれいにしておいてください。
- よごれがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で軽く拭き取り、乾いた布で仕上げてください。
- 再生面には手を触れないでください。

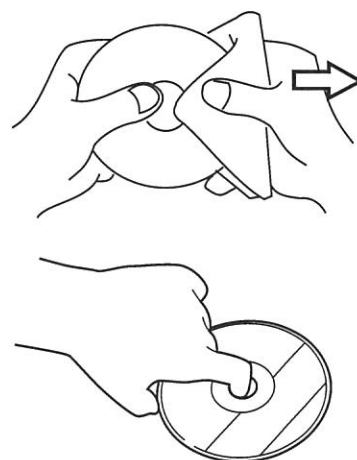
※ディスクに紙やシールを貼らないでください。

※シンナーやベンジン、アナログ式レコード専用のクリーナー、静電防止剤などは絶対に使用しないでください。ディスクを痛める原因となります。

※鉛筆やボールペンなどで字を書かないでください。

※傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。

※市販のラベルプリンターでディスク面に印刷をしたCDは使わないでください。



ディスクの保管方法

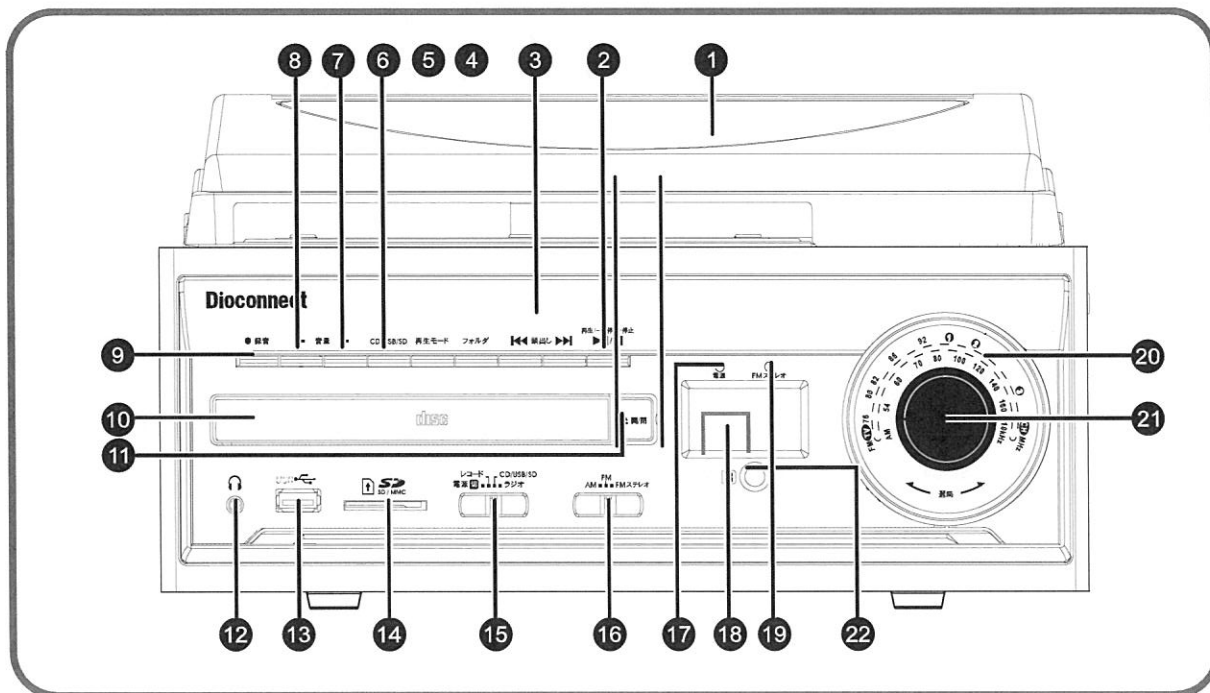
- 直射日光の当たる場所や、湿度の高い場所には保管しないでください。
- 浴室や加湿器のそばなど、湿気やほこりの多い場所には保管しないでください。
- ディスクは必ず専用のケースに入れて保管してください。専用ケースに入れずに重ねたり、立てかけたりすると変形する原因となります。

著作権法上の注意

- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

各部名称

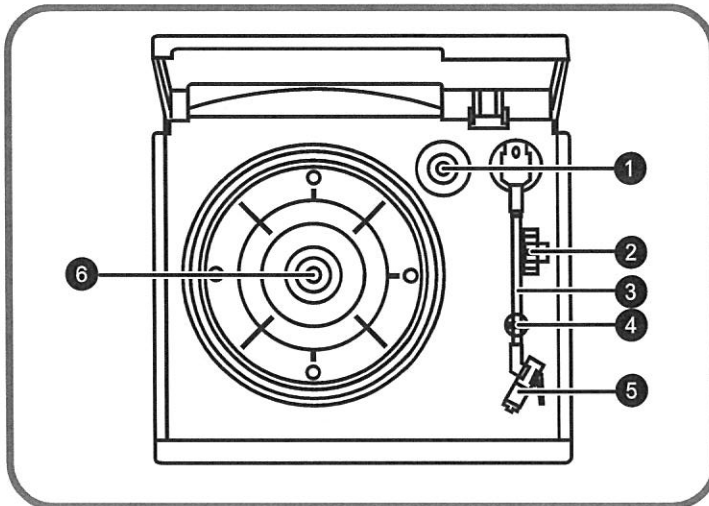
本体正面



- | | |
|------------------------------|-------------------|
| ① ダストカバー | ⑫ ヘッドフォンジャック |
| ② 再生/一時停止/停止ボタン | ⑬ USBポート |
| ③ ◀▶/▶▶ 頭出しボタン
早戻し/早送りボタン | ⑭ SD/MMCカードスロット |
| ④ フォルダボタン | ⑮ 電源/モード切り替えセレクター |
| ⑤ 再生モード (リピート/イントロ/ランダム) ボタン | ⑯ ラジオ切り替えセレクター |
| ⑥ CD/USB/SD切り替えボタン | ⑰ 電源ランプ |
| ⑦ 音量ボタン+ | ⑱ ディスプレイ |
| ⑧ 音量ボタン- | ⑲ FMステレオランプ |
| ⑨ 録音ボタン | ⑳ 選局インジケーター |
| ⑩ CDトレイ | ㉑ 選局つまみ |
| ⑪ CDトレイ開閉ボタン | ㉒ リモコン受光部 |

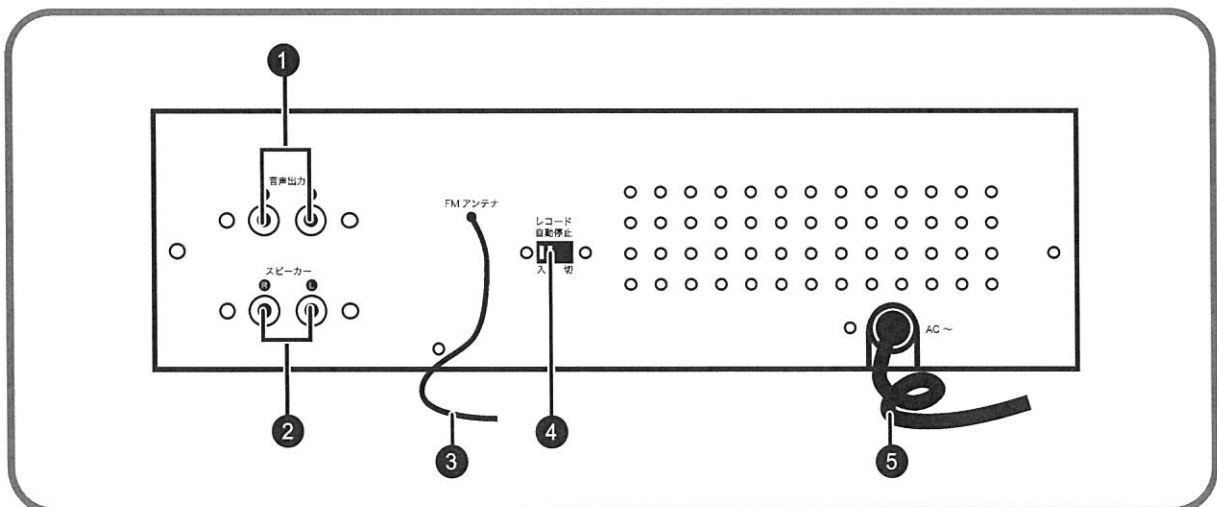
各部名称

本体上面



- ① 45回転レコード用ディスクスタビライザー
- ② レコード回転数切り替えスイッチ
- ③ アーム
- ④ アームレスト
- ⑤ レコード針カートリッジ
- ⑥ ターンテーブル

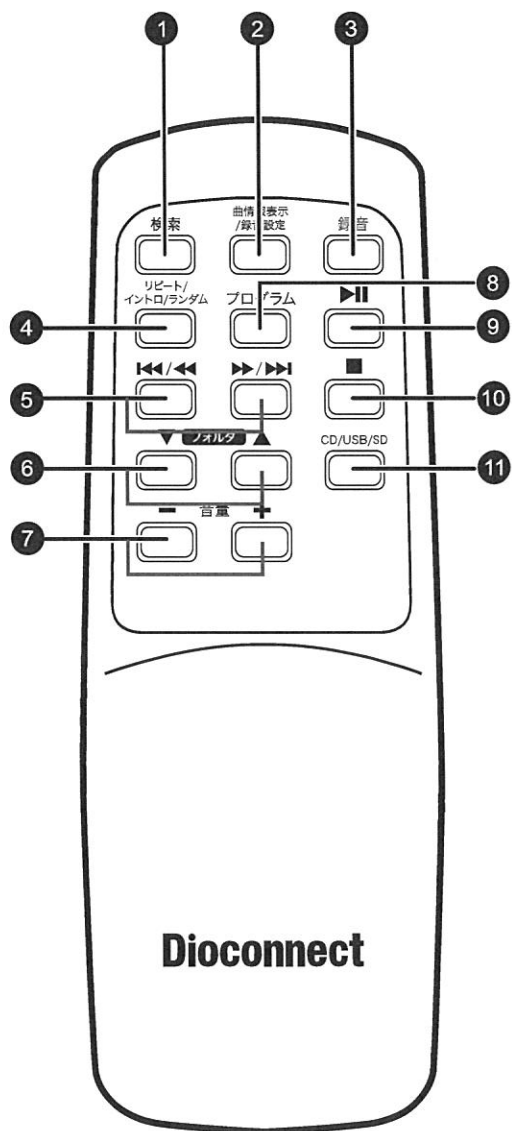
本体背面



- ① 音声出力端子 (左/右)
- ② スピーカー端子 (左/右)
- ③ FMアンテナ
- ④ レコード自動停止スイッチ
- ⑤ ACコード

各部名称

リモコンの各部名称



- 1 検索ボタン**
ファイル名で検索を行います。
- 2 曲情報表示/録音設定ボタン**
曲情報を表示します。/録音設定をします。
- 3 録音ボタン**
録音をします。
- 4 リピート/イントロ/ランダムボタン**
リピート/イントロ/ランダム再生を行います。
- 5 <</><< ボタン・>>/>>> ボタン**
早戻し/前のトラックへスキップ、
早送り/次のトラックへスキップを行います。
- 6 フォルダボタン**
フォルダモードにします。
- 7 音量ボタン・+/-**
音量を調節します。
- 8 プログラムボタン**
プログラムを設定します。
- 9 再生/一時停止ボタン**
再生/一時停止をします。
- 10 停止ボタン**
トラックの再生を停止します。
- 11 CD/USB/SDボタン**
再生モードを、CD/USB/SDの各モードに切り替えます。

リモコンを使う



注意



禁止

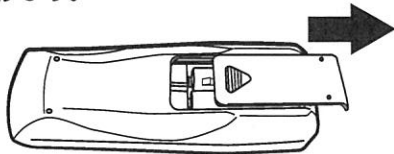
○リモコンに使用している電池について

- ・対応の電池以外は使用しないでください。
- ・極性を間違えて挿入しないでください。
- ・充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れてたりしないでください。
- ・使用推奨期限を過ぎた電池や、使用済みの電池はリモコンに入れたままにしないでください。
- ・新しい電池と古い電池、種類の違う電池を一緒に使わないでください。

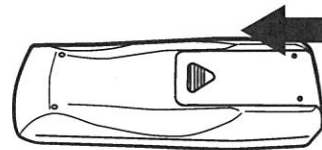
※これらを守らないと、液もれ、破裂などにより、火傷やケガの原因となることがあります。
もし、液体が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
液体が目に入った場合は、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。
器具に付着した場合は、液体に直接触れないで拭き取ってください。

電池の交換について

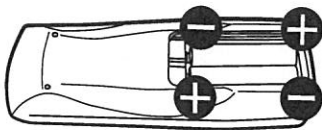
1. リモコン背面の蓋を下図矢印の方向にずらし、蓋を開けます。



3. 手順1と逆の方向に蓋をずらして、蓋を閉めます。



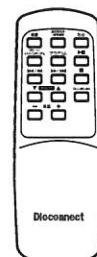
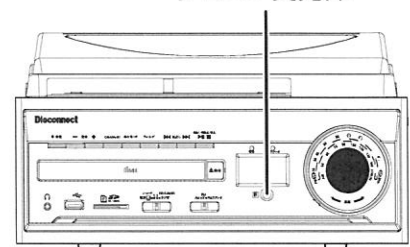
2. リモコン内部の電池ケースのプラス極とマイナス極の表示に合わせて、乾電池を入れます。



リモコンの使い方

- リモコンを、本体のリモコン受光部に向けてボタンを押します。
- ※リモコン受光部に、太陽光や蛍光灯など強い光が当たると、リモコンが動作しないことがあります。

リモコン受光部

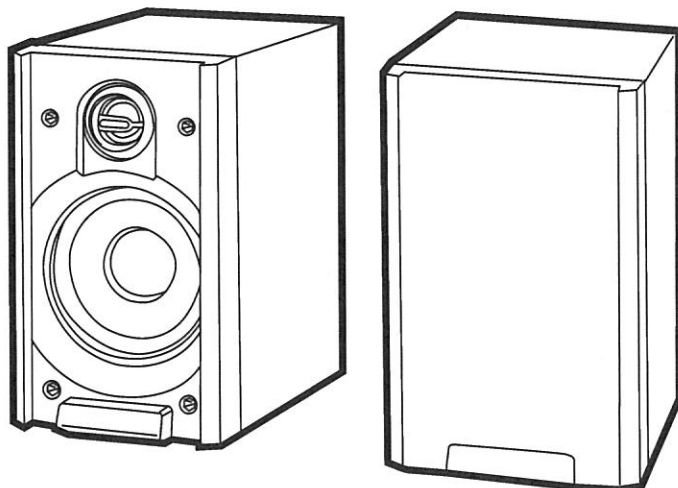


注意

- 電池について
リモコンが動作しなかったり、到達距離が短くなった場合は、新しい電池と交換してください。
- リモコンについて
・落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
・高温・高湿になる場所に置かないでください。

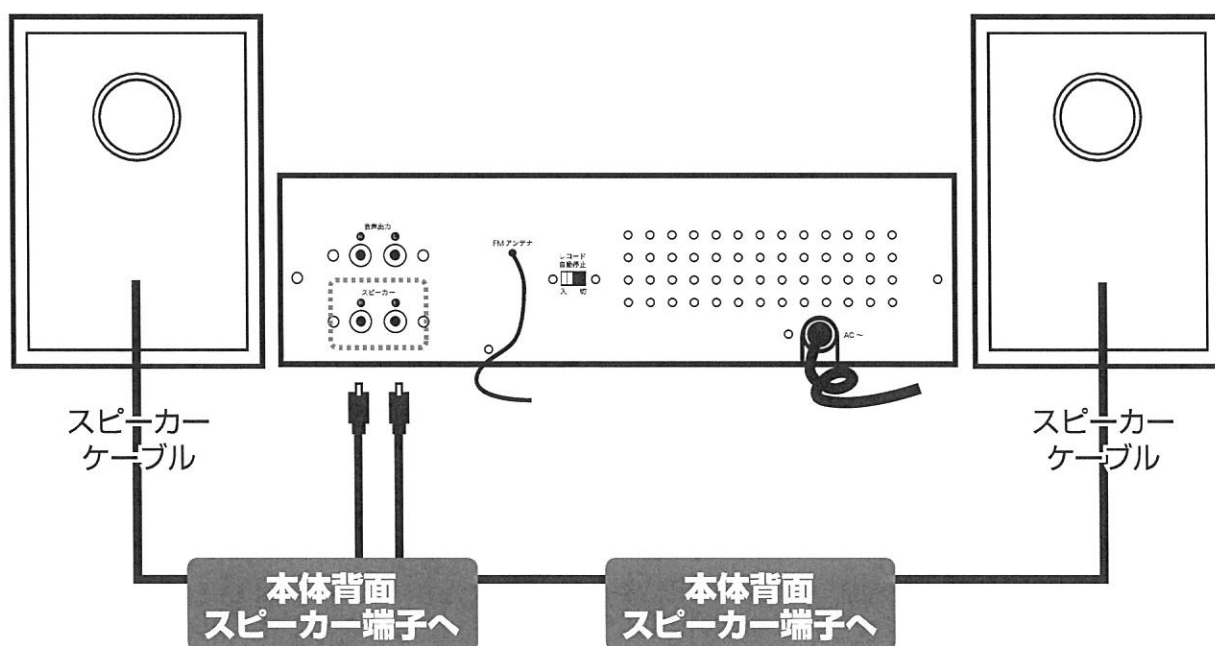
スピーカーについて

- 本製品にはスピーカーが付属しています。
- 付属のスピーカーは2つとも同じ構造です。左右のどちらにでも設置することができます。



本体にスピーカーを接続する

- 下図の通り、スピーカーケーブルを本体背面のスピーカー端子へ接続してください。



接続する

音声出力の接続をする



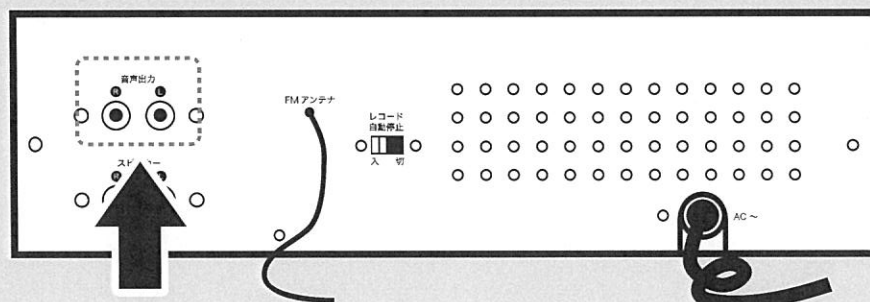
注意

・接続する時は、必ず本製品及び外部機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本製品の音声を外部機器から出力することができます。

- 接続する前に
 - ・本製品および接続する機器の電源を「切」にしてください。
 - ・接続する機器の説明書もお読みください。

本体背面



音声出力端子
R (赤) へ

音声出力端子
L (白) へ

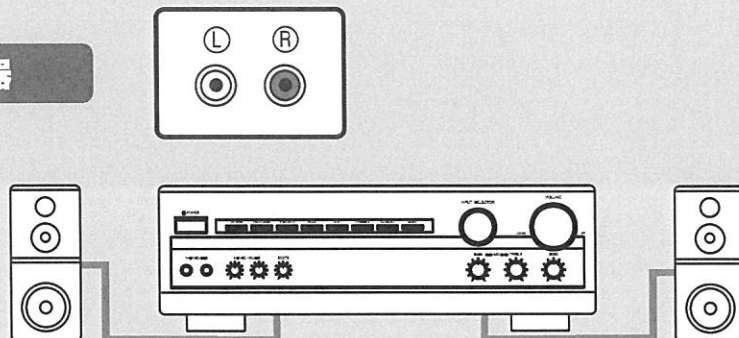
AVケーブル (市販品)

※ケーブルは市販品をご使用下さい。

音声出力端子
L (白) へ

音声出力端子
R (赤) へ

外部機器

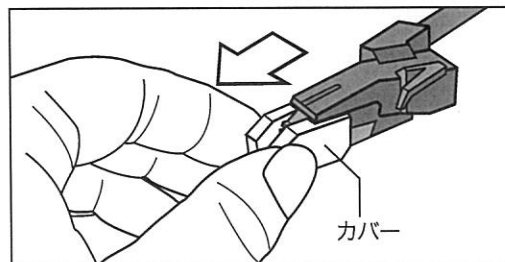


レコード針カートリッジ

レコードをご使用の前に、カートリッジのカバーを外してください。

●右図のように矢印の方向へ水平にスライドして取り外します。

※レコード針は精密品です。乱暴に扱わず、取り扱いには十分ご注意ください。

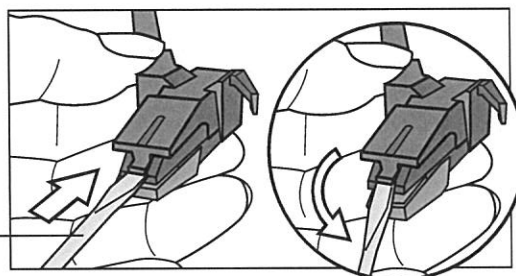


レコード針カートリッジ (別売) の交換

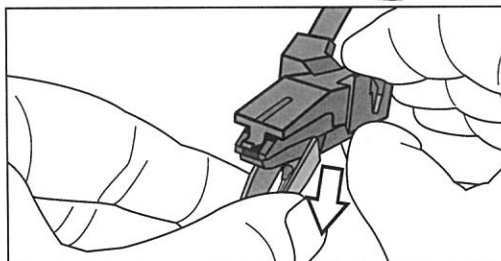
●別売のレコード針カートリッジの交換は下記の手順を参照してください。

1. 取り付け部正面の中央の溝にマイナスドライバーなどを差し込み、軽く引き下げます。カートリッジの前方が外れます。

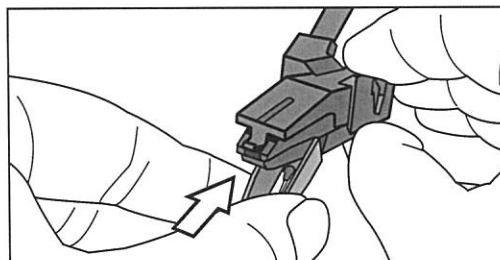
マイナスドライバー



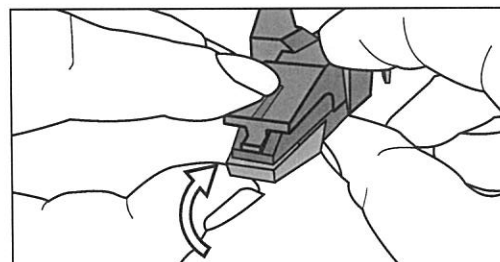
2. 図のように、両側面を持って、カートリッジを取り外します。



3. 新しいカートリッジのカバーを取り外し、図のように後方から差し込みます。



4. 前方を上方向に押し込むと、カチッと音がしてカートリッジがはまります。



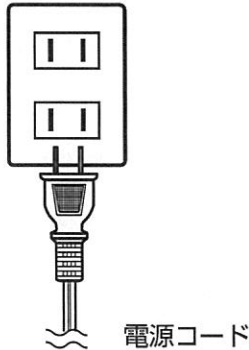
注意

- 本体にレコードをセットした状態では絶対に行わないでください。
- 針部には触らないでください。
- レコード針の使用耐久時間の目安は約500時間です。それ以上使用を続けると、レコードを傷つけてしまう恐れがありますので、ご注意ください。

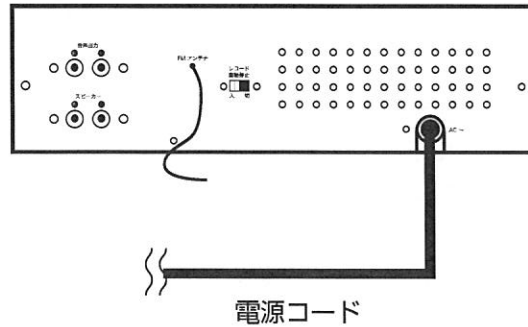
電源コードを接続する

本製品の電源をオンにするには、電源コードをコンセントに接続します。

家庭用電源コンセント



本体背面



基本操作

電源のオン/オフ

●あらかじめ本体の電源コードをコンセントに接続しておいてください。

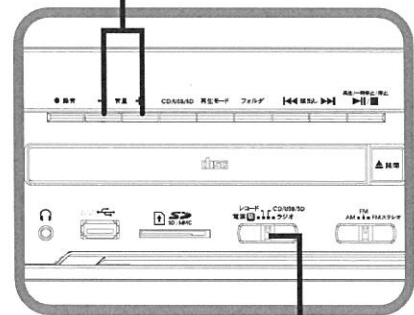
1. 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を電源切の位置から、使用したいモードに切り替えます。
2. 電源がオンになると電源ランプが点灯します。
3. 電源をオフにするには、本体の「電源/モード切り替えセレクター」を電源切の位置に切り替えます。

音量調節をする

●本体またはリモコンの「音量ボタン・+/-」を押して、音量を調整します。

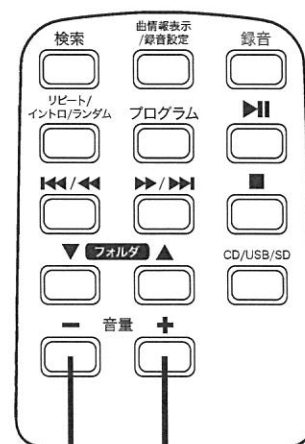
本体正面

音量ボタン・+/-



電源/モード切り替えセレクター

リモコン



音量ボタン・+/-

基本操作

ヘッドフォンで聴く

- 本体のヘッドフォン出力端子に、別売のヘッドフォンを接続します。
ヘッドフォンを接続すると、本体の音声出力がヘッドフォン優先になり、スピーカーからは音がでなくなります。

※ヘッドフォンを接続する際は、事前に音量を下げてから接続を行ってください。

モードを切り替える

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を切り替えて、各モードに切り替えることができます。

レコード

- レコードを聴くことができます。
- レコードから、SD/マルチメディアカード、またはUSBメモリへ録音することができます。

➡ P.27を参照してください。

CD/USB/SD

- CD/USB/SDの各モードで音楽を聴くことができます。
- 音楽CDから、SD/マルチメディアカード、またはUSBメモリへ録音することができます。

➡ P.19～を参照してください。

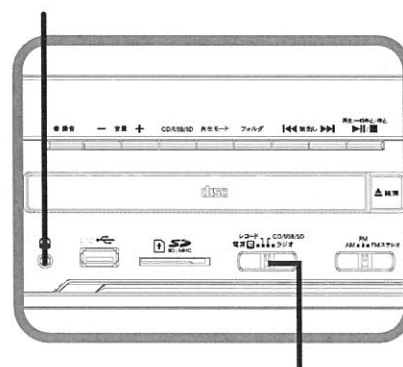
ラジオ

- FM/AMラジオを聴くことができます。

➡ P.34を参照してください。

本体正面

ヘッドフォン出力端子



電源/モード切り替えセレクター

音楽CDを聴く

音楽CDや、CD-DAフォーマットで記録された音楽用CD-RとCD-RW再生に対応しています。

※CD-DAフォーマットの音楽用CD-RとCD-RWは録音終了時にファイナライズが必要です。ただし、記録状態によっては再生できない場合があります。

CDモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えます。
- ※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。
- 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押してCDモードに切り替えます。

音楽CDをセットする

1. 本体正面の「CDトレイ開閉ボタン」を押して、CDトレイを開けます。
2. レーベル面を上にした状態でCDをCDトレイのくぼみに沿って正確に置きます。
3. 「CDトレイ開閉ボタン」を押して、CDトレイを閉めます。
4. 自動的にCDが読み込まれ、ディスプレイにCDのトラック数を収録時間が表示されます。

CDモードの基本操作

再生

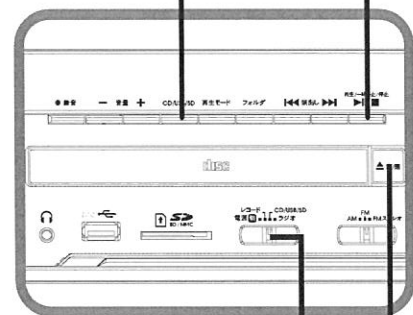
- 本体の「再生/一時停止/停止ボタン」、もしくはリモコンの「再生/一時停止ボタン」を押して再生します。

一時停止

- CDの再生中に本体の「再生/一時停止/停止ボタン」、もしくはリモコンの「再生/一時停止ボタン」を押して一時停止します。一時停止中はディスプレイの経過時間の表示が点滅します。
- 一時停止を解除するには本体の「再生/一時停止/停止ボタン」、もしくはリモコンの「再生/一時停止ボタン」を押し、再生を再開します。

本体正面

再生/一時停止/停止ボタン
CD/USB/SDボタン

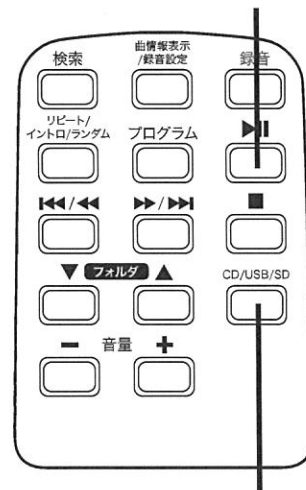


電源/モード切り替えセレクター

CDトレイ開閉ボタン

リモコン

再生/一時停止ボタン



CD/USB/SDボタン

注意

- CCCDとCD EXTRAの場合、トラック数が多く表示されることがあります。
- レコードモード及びラジオモードを選択時は、CDトレイは開きません。「モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えてからトレイを開いてください。

音楽CDを聴く

CDモードの基本操作

停止

本体

- CDの再生中に「再生/一時停止/停止ボタン」を長押しして停止します。

リモコン

- CDの再生中に、「停止ボタン」を押して停止します。

次のトラックへスキップ

- 本体の頭出し「▶▶ ボタン」、もしくはリモコンの「▶▶/▶▶ ボタン」を押して次のトラックにスキップします。

前のトラックへスキップ

- 本体の頭出し「◀◀ ボタン」、もしくはリモコンの「◀◀/◀◀ ボタン」を2度押して前のトラックにスキップします。

- 1回目：再生中のトラックの先頭に戻ります。
- 2回目：前のトラックの先頭に戻ります。



以降、「◀◀ ボタン」を押す度に前のトラックに戻ります。

- ※ランダム再生時は1度押しだけで前のトラックに戻ることができます。

早送り

- 本体の頭出し「▶▶▶ ボタン」、もしくはリモコンの「▶▶▶/▶▶▶ ボタン」を押し続けて早送りします。

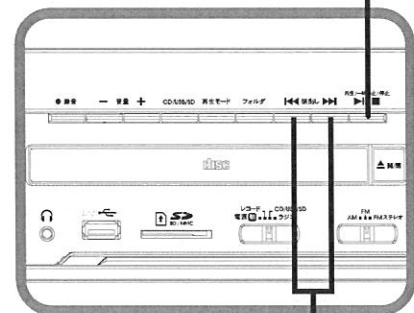
早戻し

- 本体の頭出し「◀◀◀ ボタン」、もしくはリモコンの「◀◀◀/◀◀◀ ボタン」を押し続けて早戻しします。

- ※早送り/早戻しはトラックをまたいで行うことが可能です。

本体正面

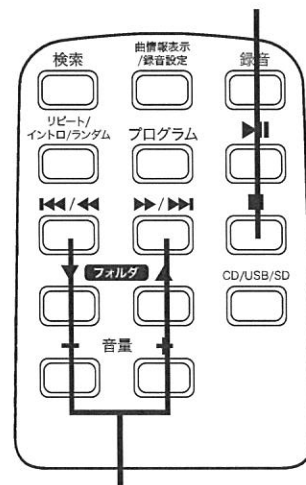
再生/一時停止/停止ボタン



◀◀ / ▶▶ 頭出しボタン
早送り/早戻しボタン

リモコン

停止ボタン



◀◀ / ▶▶ ボタン
◀◀ / ▶▶ ボタン

MP3/WMA CDを聴く

本製品はMP3/WMAファイルが記録されたCD-R/RWを再生することができます。

CDモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えます。
- ※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。
- 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押してCDモードに切り替えます。

MP3/WMA CDをセットする

1. 本体正面の「CDトレイ開閉ボタン」を押して、CDトレイを開けます。
2. レーベル面を上にした状態でMP3/WMA CDをCDトレイのくぼみに沿って正確に置きます。
3. 「CDトレイ開閉ボタン」を押して、CDトレイを閉めます。
4. 自動的にMP3/WMA CDが読み込まれ、ディスプレイにCD内のフォルダ数と音楽ファイル数が表示されます。

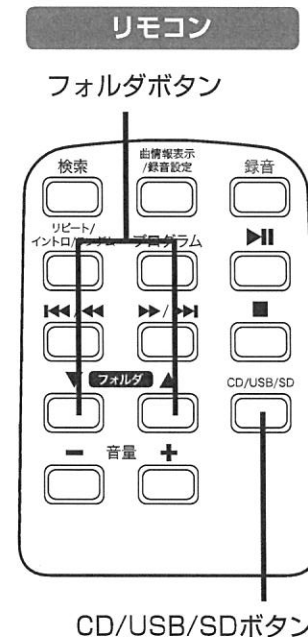
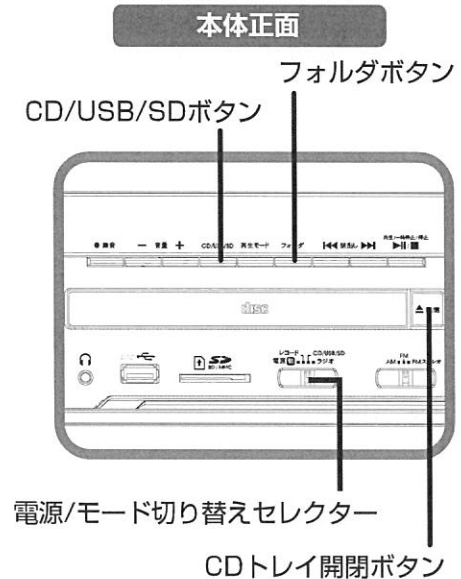


CD (MP3/WMA) モードの基本操作

- 操作方法は通常のCDモードと同様です。
- ➡ P.19・P.20を参照してください。

フォルダ選択

- フォルダが複数ある場合、ファイルの再生中に本体、もしくはリモコンの「フォルダボタン」を押して、フォルダを選択することができます。選択するとフォルダ内の先頭ファイルにスキップします。



注意

- CD内の全てのトラックが再生された後は、自動的に停止になります。(オールリピートに設定されていない場合)
- レコードモード及びラジオモードを選択時は、CDトレイは開きません。「モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えてからトレイを開いてください。

USBメモリを接続する

本製品はUSB接続が可能なUSBメモリ（別売）と接続して、保存されている音楽ファイルの再生や録音を行うことができます。

USBモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えます。
※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。
- 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押してUSBモードに切り替えます。

USB接続する

1. 本体のUSBポートにUSBメモリ（別売）を接続します。
2. 自動的にMP3/WMAファイルが読み込まれ、ディスプレイにUSBメモリ内のフォルダ数と音楽ファイル数が表示されます。



USBモードの基本操作

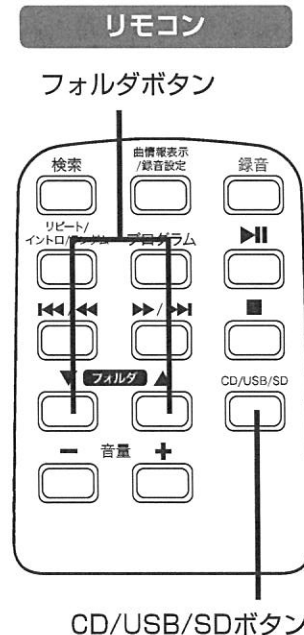
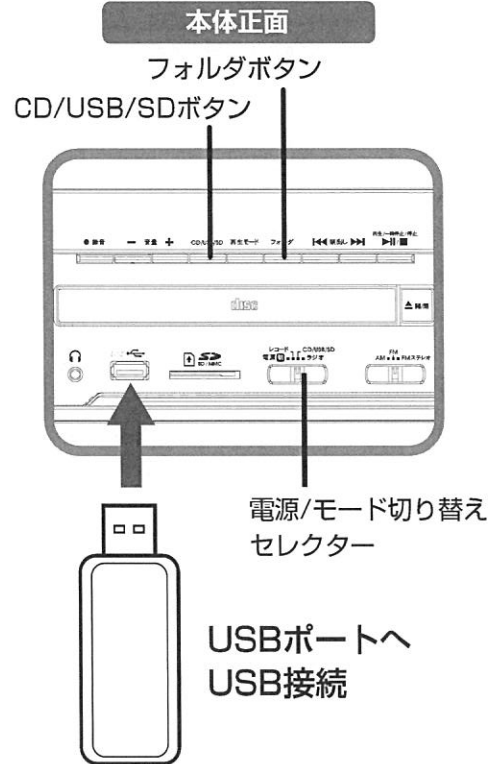
- 操作方法は通常のCDモードと同様です。
➡ P.19・P.20を参照してください。

フォルダ選択

- フォルダが複数ある場合、ファイルの再生中に本体、もしくはリモコンの「フォルダボタン」を押して、フォルダを選択することができます。選択するとフォルダ内の先頭ファイルにスキップします。

注意

- USBメモリ内の全てのトラックが再生された後は、自動的に停止になります。（オールリピートに設定されていない場合）
- 一部対応していないUSBメモリもあります。あらかじめご了承ください。
- 本製品にUSBメモリを接続する際は、USBメモリの取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- HDDタイプのUSBメモリとの接続は動作保証の対象外となります。ご了承ください。



SD/マルチメディアカードを使用する

本製品はSDメモリーカード/マルチメディアカード (MMC) (それぞれ別売) を挿入して、保存されている音楽ファイルの再生や録音を行うことができます。

※SD/MMC以外のメモリーカードは使用できません。

※ライトプロテクトスイッチがロックされている場合は録音することができません。

SDモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えます。
- ※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。
- 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押してSDモードに切り替えます。

SD/MMCを挿入する

1. 本体のカードスロットにSD/MMC (別売) をカチッとまでしっかりと挿入する。
2. 自動的にMP3/WMAファイルが読み込まれ、ディスプレイにSD/MMC内のフォルダ数と音楽ファイル数が表示されます。



SDモードの基本操作

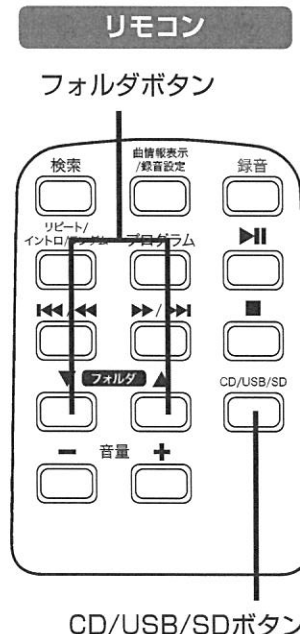
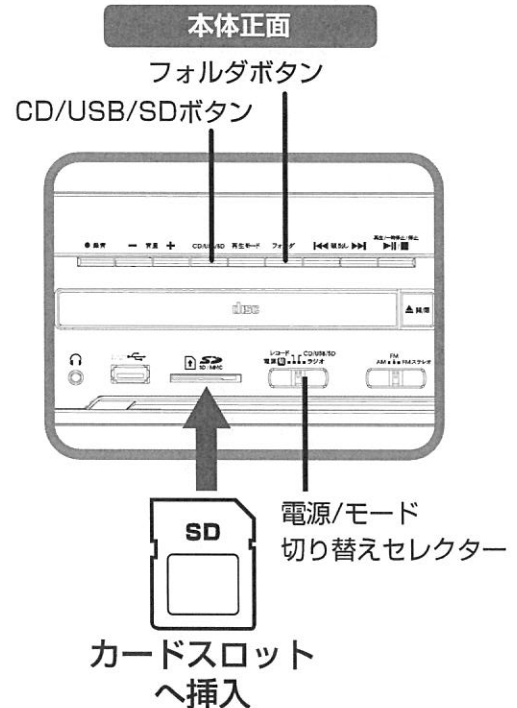
- 操作方法は通常のCDモードと同様です。
- ➡ P.19・P.20を参照してください。

フォルダ選択

- フォルダが複数ある場合、ファイルの再生中に本体、もしくはリモコンの「フォルダボタン」を押して、フォルダを選択することができます。選択するとフォルダ内の先頭ファイルにスキップします。

注意

- SD/MMC内の全てのトラックが再生された後は、自動的に停止になります。(オールリピートに設定されていない場合)
- 一部対応していないSD/MMCもあります。あらかじめご了承ください。
- 本製品にSD/MMCを挿入する際は、挿入するカードの取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



SD/マルチメディアカードを使用する

SDメモリーカード/マルチメディアカードの使用時の注意

ライトプロテクトスイッチについて

SDメモリーカードには「ライトプロテクトスイッチ」が付いています。このスイッチがロック状態の場合、カードへのデータの書き込みが行われず、記録済みのデータは保護されます。

録音する際には、ロックが解除されている状態か確認をしてください。

接続/転送中はカードを取り外さない

本製品へのカードの挿入中、カード内のファイルの再生、カードへの記録中は、本製品からカードを取り外さないでください。記録されているデータやカード、本製品が破損する恐れがあります。

注意

- カードは精密機械ですので、乱暴に扱わないでください。また、静電気を帯びていると、正常に認識されなかったり、本製品が誤作動する場合があります。
- カードに異常がある場合は、フォーマット（初期化）することで正常に戻る可能性があります。ただし、フォーマットを行うと記録されているデータは全て失われます。あらかじめご了承ください。フォーマットを行ってください。
- カードの使用時、誤作動や故障により記録されているデータが失われる場合があります。その場合、内容に関わらず当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- カードが汚れてしまった場合は、乾いた柔らかい布などで汚れを拭き取ってください。

様々な再生機能

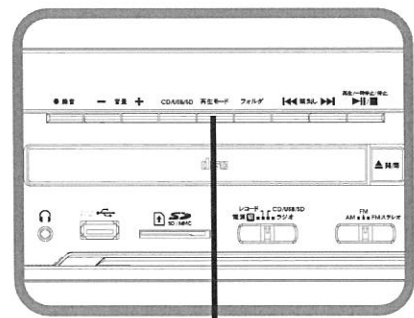
音楽CD、MP3/WMA CD、SD/MMC/USBモードでは様々な再生機能があります。

- 各再生モードで、ディスプレイにお好みの再生モードのアイコンが表示されるまで、本体の「再生モードボタン」、もしくはリモコンの「リピート/イントロ/ランダムボタン」を数回押します。
- 解除する場合は、本体の「再生モードボタン」、もしくはリモコンの「リピート/イントロ/ランダムボタン」を数回押し、ディスプレイの各再生モードのアイコンの表示を消します。

音楽CDの再生モード

- | | |
|---------------|--|
| <p>□</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●選曲中のトラックをリピート再生します。
※スキップ、早戻し/早送りの操作を行った場合はトラックリピートは機能しない場合があります。 |
| <p>□ ALL</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●全てのトラックをリピート再生します。 |
| <p>INTRO</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●トラックの先頭の約10秒間を頭出し再生します。 |
| <p>RANDOM</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●トラックの順番をランダムに入れ替えて再生します。 |
| <p>表示無し</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●通常の再生モードです。 |

本体正面



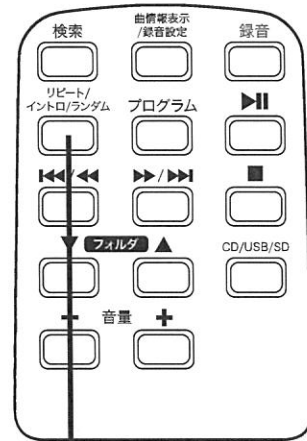
再生モードボタン

MP3/WMA CD、SD/MMC/USBの再生モード

- | | |
|-----------------|--|
| <p>□</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●選曲中のトラックをリピート再生します。
※スキップ、早戻し/早送りの操作を行った場合はトラックリピートは機能しない場合があります。 |
| <p>□ ALL</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●全てのトラックをリピート再生します。 |
| <p>□ FOLDER</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●選択中のフォルダ内のトラックのみリピート再生します。
※トラックのスキップ機能はフォルダ内のみです。 |
| <p>INTRO</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●トラックの先頭の約10秒間を頭出し再生します。 |
| <p>RANDOM</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●トラックの順番をランダムに入れ替えて再生します。 |
| <p>表示無し</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●通常の再生モードです。 |

リモコン

フォルダボタン



リピート/イントロ/ランダムボタン

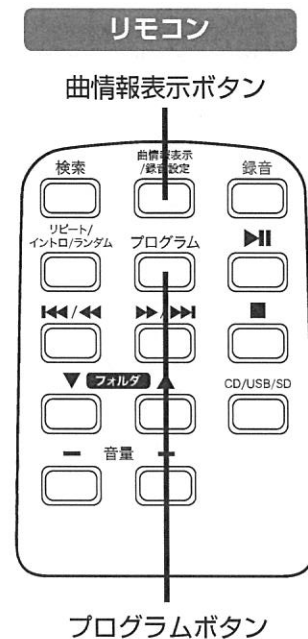
様々な再生機能

プログラム再生

- ディスク/メモリ内のトラックの中から好みのトラックだけを選び、選んだ順にプログラム再生することができます。最大で32トラックをプログラム登録することができます。

- 1.各再生モードで、停止中にリモコンの「プログラムボタン」を押すと、ディスプレイに「PROG」と表示されます。
- 2.本体/リモコンの「◀◀/▶▶ボタン」を押して好みのトラックに移動します。
- 3.リモコンの「プログラムボタン」を押すと、そのトラックがプログラム登録されます。
- 4.2トラック目以降の操作は、上記の2～3の手順を繰り返します。プログラムでは同じトラックを繰り返し選択することも可能です。
- 5.プログラムを設定し終わったら、本体/リモコンの「再生ボタン」を押してプログラム再生を開始します。

- プログラムを解除するには、本体/リモコンの「停止ボタン」を押します。ディスプレイの「PROG」の表示が消えます。
- フォルダリピートとランダム再生は、機能しなくなります。



曲情報を表示する

- MP3/WMA CD、SD/MMC/USB内のMP3/WMAファイルに記録されているID3タグ情報を表示させることができます。
- ※ID3タグの表示は半角英数のみ対応しております。

- 1.リモコンの「曲情報表示ボタン」を押すと、再生中のMP3/WMAファイルの情報がディスプレイに表示されます。
- 2.「現在のトラックのファイル名/タイトル/アーティスト名/アルバム名」の順にスクロール表示されます。
- 3.もう一度リモコンの「曲情報表示ボタン」を押すと、MP3/WMAファイルの再生時間表示に戻ります。

レコードを聴く

33・45回転/分のレコードに対応しています。
45回転のレコードを使用する場合は、付属のディスクスタビライザーをご使用ください。

- ご使用の際は針を保護しているダストカバーを取り外してください。
- アームレストにある固定フックを開いた状態でダストカバーを開めると、フックが破損する恐れがあります。ダストカバーを閉める間に必ずフックを戻した状態にしてください。
- レコードの種類によっては、自動停止エリアが異なり、最終の曲の途中で停止する場合があります。その場合は、本体背面の「レコード自動停止スイッチ」をオフにすると、曲が終了しても回り続けます。再度スイッチをオンにして停止させてください。

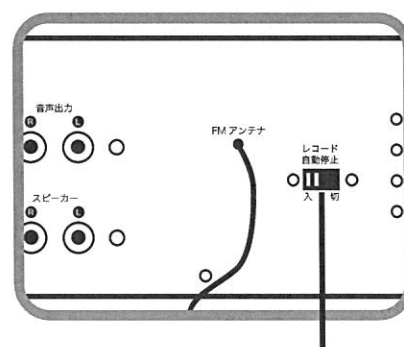
レコードモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「レコード」に切り替えます。
- ※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

レコードをセットする

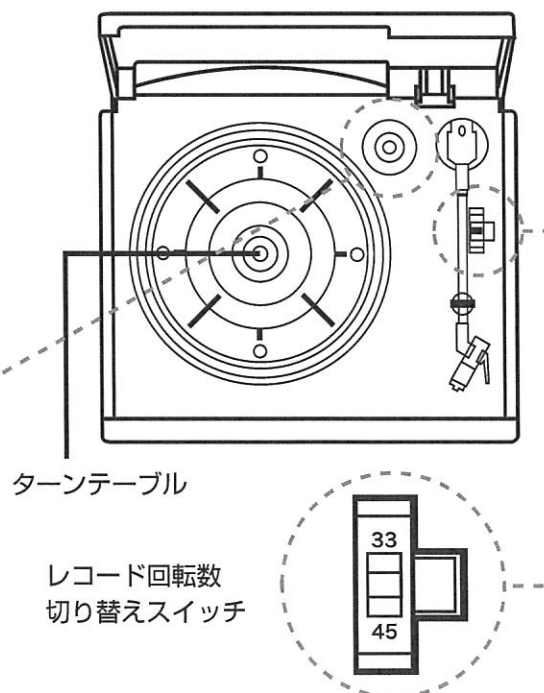
1. 本体上面のダストカバーを開けます。
2. レコードの演奏スピードに合わせて「レコードか回転数切り替えスイッチ」を設定します。
3. レーベル面を上にした状態でレコードをターンテーブルの上にセットします。
EP盤の場合は、レコードを固定するために付属のディスクスタビライザーをレコードの下にセットします。
4. LP盤レコードの場合は、回転を安定させるために付属のディスクスタビライザーをおもりとして使用することもできます。レコードの上に乗せてご使用ください。

本体背面



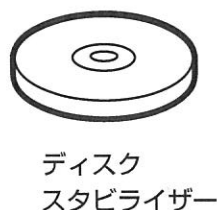
レコード自動停止スイッチ

本体上面



ターンテーブル

レコード回転数
切り替えスイッチ

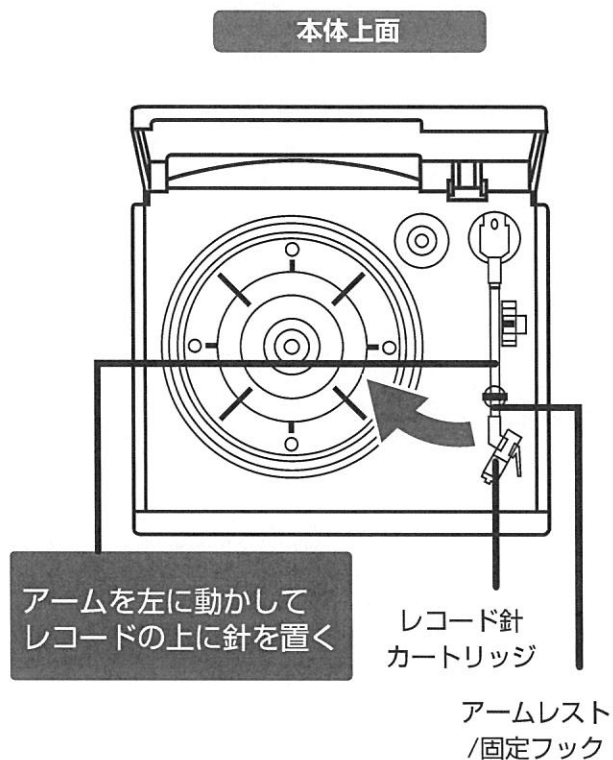


ディスク
スタビライザー

レコードを聴く

レコードを再生する

- 1.レコード針カートリッジからカバーを外します。
- 2.固定フックを外し、アームレスとからアームを取り外します。
- 3.アームを動かすと、ターンテーブルが回転し始めます。
- 4.レコードの上にゆっくりとレコード針を置き、再生を開始します。
- 5.レコードの再生を終えたら、レコード針カートリッジにカバーを付け、アームをアームレストに戻し、固定フックで固定してください。



注意

- レコード針カートリッジのカバーをなくなさないようにご注意ください。
- レコードの再生時は、ダストカバーを降ろし、レコードにほこりや傷が付かないようにしてください。

音楽CDから録音する

本製品は音楽CDのトラックを、SD/MMC、USBメモリにMP3形式で録音することができます。

CDモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「CD/USB/SD」に切り替えます。
※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。
- 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押してCDモードに切り替えます。

SD/MMC、またはUSBメモリをセットする

SD/MMCへの録音

- SD/MMCをカードスロットへ挿入します。

USBメモリへの録音

- USBメモリをUSBポートへ接続します。
- SD/MMCとUSBメモリを両方セットすると、SD/MMCかUSBメモリか、録音先の選択画面が表示されます。
本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押して「USB」か「CARD (SD/MMC)」のどちらかのメディアを選択します。

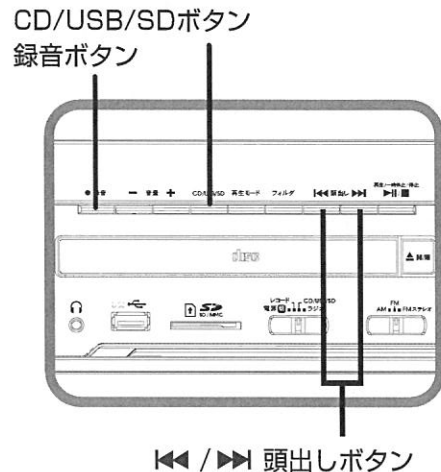
録音設定をする

- ビットレート（録音品質）の設定を行います。

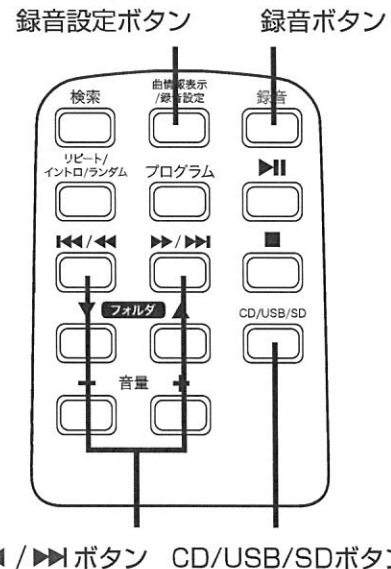
1. リモコンの「録音設定ボタン」を押します。
2. 本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押してお好みのビットレートを選択します。
3. もう1度リモコンの「録音設定ボタン」を押して設定を完了します。

※一度電源をオフにすると録音設定は「128kbps」の設定に初期化されます。

本体正面



リモコン



選択可能なビットレート

32 - 64 - 96 - 128 - 192 - 256 kbps

録音品質

低 ←→ 中 ←→ 高

データ容量

小 ←→ 中 ←→ 大

音楽CDから録音する

録音する

1トラック録音

1. 本体、もしくはリモコンの「**⏮ / ⏭** ボタン」を押して音楽CDの録音したいトラックにスキップします。
2. 本体、もしくはリモコンの「再生ボタン」を押してトラックの再生を開始します。
3. 本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押してトラックの録音を開始します。
※再生中に録音を開始しても、1トラック分全て録音されます。
4. 録音が終了すると自動的に停止します。

- 録音を途中で停止するには、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押します。

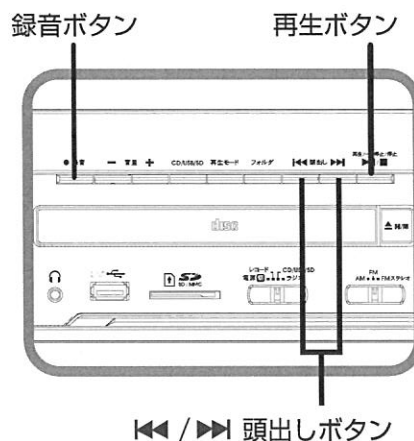
全トラック録音

ディスク内の全てのトラックを一度に録音することができます。

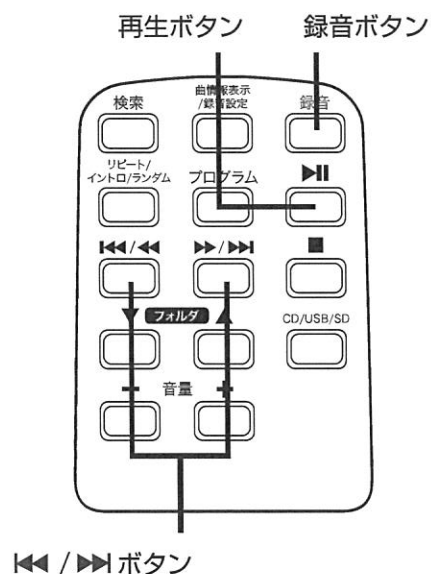
1. 音楽CDがセットされている状態で、ディスクを再生せずに、停止状態にします。
2. 本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押すとトラックを順に全て録音します。
3. 録音が終了すると自動的に停止します。

- 録音を途中で停止するには、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押します。
- 最初に、本体、もしくはリモコンの「**⏮ / ⏭** ボタン」を押して開始するトラックにスキップすると、そのトラック以降の全てのトラックを録音することができます。

本体正面



リモコン



音楽CDから録音する

録音する

プログラム録音

プログラム設定したトラックのみを録音することができます。

1. P.26の「プログラム再生」を参照してお好みでプログラム設定します。
2. 本体、もしくはリモコンの「再生ボタン」を押してプログラム再生を開始します。
3. 本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押してトラックの録音を開始します。
4. 録音が終了すると自動的に停止します。

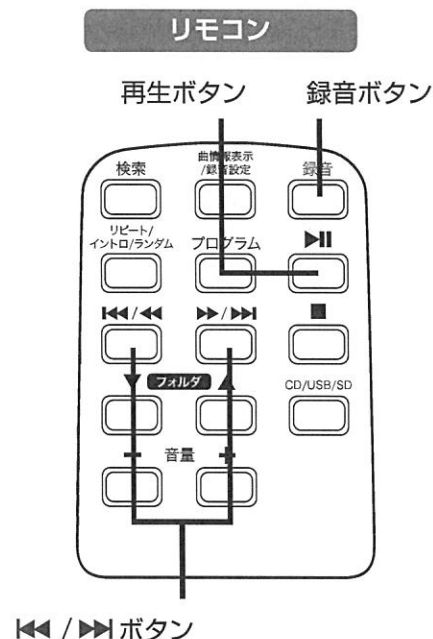
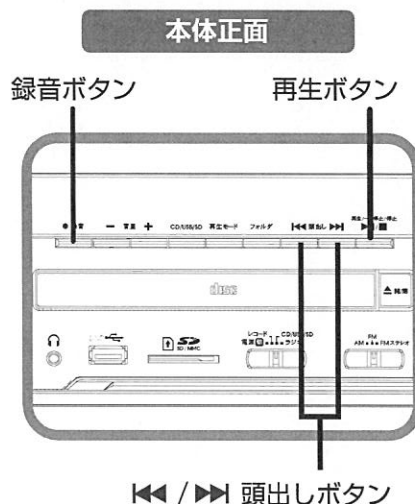
- 録音を途中で停止するには、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押します。
- 最初に、本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押して開始するトラックにスキップすると、そのトラック以降の全てのトラックを録音することができます。

録音ファイルについて

- 録音したMP3ファイルは「AUDIO」というフォルダ内に「AUDIOXXX.MP3」という連番のファイル名にて保存されます。
- メディア内の第1階層に「AUDIO」フォルダがある場合は、このフォルダに録音ファイルが追加されます。
- メディア内の第1階層に「AUDIO」フォルダがない場合は、新しく第1階層に「AUDIO」フォルダが作成されます。(第2階層以降に「AUDIO」フォルダがある場合含む。)

注意

- 通常の音楽CD以外からは録音することができません。
- 録音するメディアの空き容量が無くなると、録音は中止されます。メモリ残量の確認をしてください。
- メディアのメモリ内の空き容量が足りないまま録音すると、録音が正常に終了せずにメモリ内にOKBのMP3ファイルが作成されることがあります。不要なファイルになりますので、消去を行ってください。
- 本製品で録音したMP3ファイルは全ての再生機器での再生を保証するものではありません。
- 録音を行っている最中に、メディアの接続を解除したりしないでください。メディアや本製品が破損する恐れがあります。



レコードを録音する

本製品はレコードからSD/MMC/USBメモリに、MP3形式で録音することができます。

レコードモードにする

- 本体の「電源/モード切り替えセレクター」を「レコード」に切り替えます。
- ※ 他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

レコードをセットする

1. 本体上面のダストカバーを開けます。
2. レコードの演奏スピードに合わせて「レコードか回転数切り替えスイッチ」を設定します。
3. レーベル面を上にした状態でレコードをターンテーブルの上にセットします。
EP盤の場合は、レコードを固定するために付属のディスクスタビライザーをレコードの下にセットします。
4. LP盤レコードの場合は、回転を安定させるために付属のディスクスタビライザーをおもりとして使用することもできます。レコードの上に乗せてご使用ください。

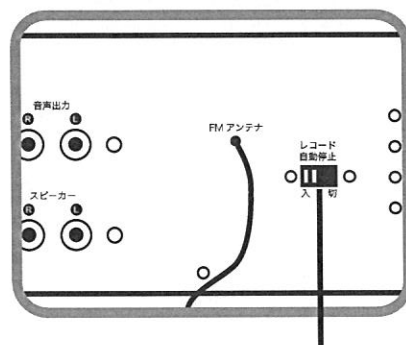
SD/MMC、またはUSBメモリをセットする

- ➡ ● P.29の「SD/MMC、またはUSBメモリをセットする」の項目を参照して、メディアをセットしてください。

録音設定をする

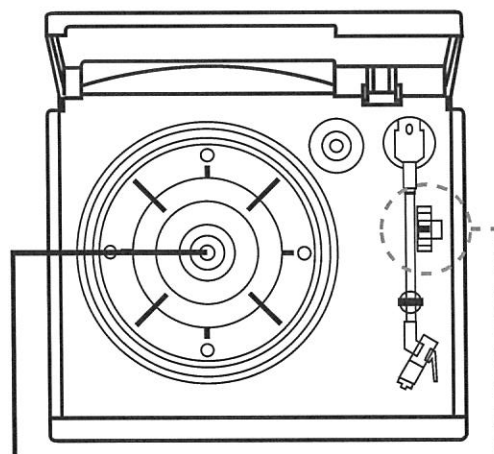
- ➡ ● P.29の「録音設定をする」の項目を参照して、録音の設定を行ってください。

本体背面



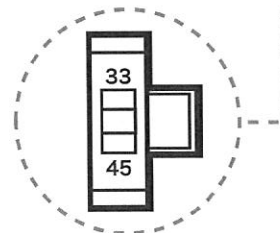
レコード自動停止スイッチ

本体上面



ターンテーブル

レコード回転数
切り替えスイッチ



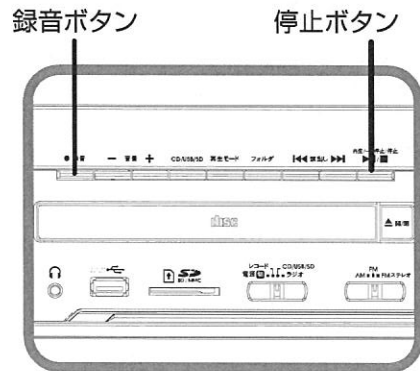
レコードを録音する

録音する

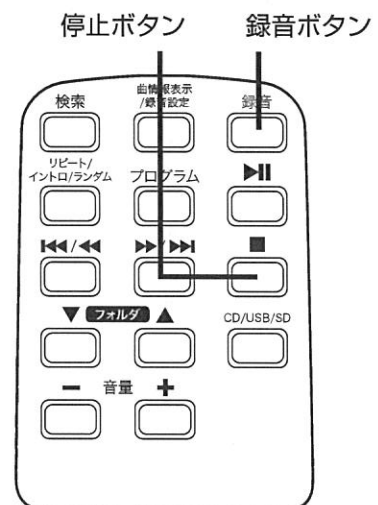
1. SD/MMC、もしくはUSBメモリがセットされていることを確認し、本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押します。
2. ディスプレイに「CARD」、もしくは「USB」の文字が表示され点滅します。
両方がセットされている場合は、本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押して、「USB」か「CARD (SD/MMC)」のどちらかのメディアを選択します。
3. レコードを再生する準備をします。アームを動かして、ターンテーブルを回転させます。
4. ディスプレイの「CARD」、もしくは「USB」の文字の点滅が終わり、「REC (録音)」と表示され録音が始まります。
5. 上記の手順4とタイミングを合わせ、レコードの上にゆっくりとレコード針を置いて再生を開始します。レコードの録音が始まります。
6. 録音を停止するには、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押します。
7. 最後にレコードのアームをアームレストに戻し、レコードの再生を停止します。

- 録音したMP3ファイルは「AUDIO」というフォルダ内に「AUDIOXXX.MP3」という連番のファイル名にて保存されます。
- 録音は自動で停止しません。1ファイルごとに区切りたい箇所で手動で録音を停止させてください。

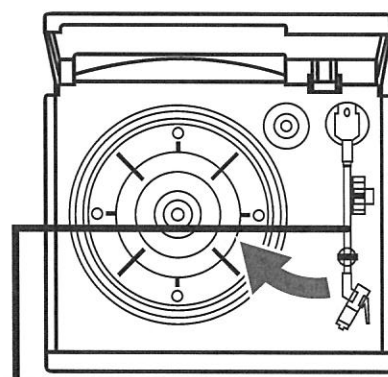
本体正面



リモコン



本体上面



アームを左に動かしてレコードの上に針を置く

ラジオを聴く

本製品はFM/AMラジオを聴くことができます。

- FMラジオのアンテナは本体背面にあります。FM放送を聴きながらチューナーアンテナの方向を変え、受信感度が良好なところを探し、テープなどで固定してください。
- AMラジオのアンテナは本体内蔵です。受信感度が良好な場所に本体を設置してください。

ラジオモードにする

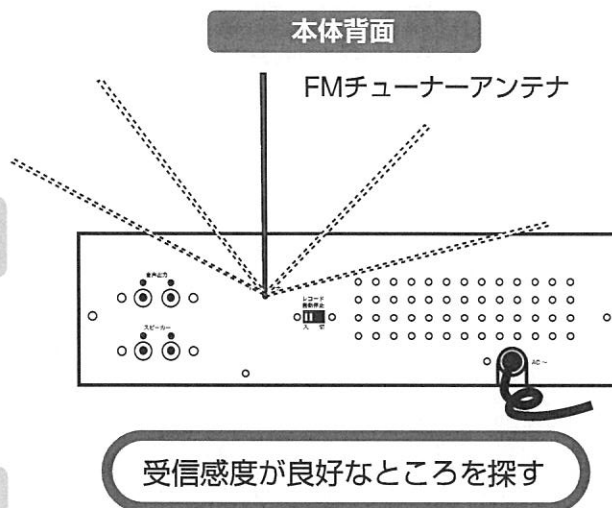
- 本体の「モード切り替えスイッチ」を「ラジオ」に切り替えます。
※ディスプレイのバックライトが消灯します。

FMラジオを聴く

1. 本体の「ラジオ切り替えスイッチ」を「FMステレオ」に切り替えます。
FMステレオの受信感度が良好だと、本体のFMステレオランプが点灯します。
2. 本体の「選局インジケーター」のランプを見ながら「選局つまみ」を左右に回し、お好みの周波数に合わせます。
 - FMの受信周波数は76.00～108MHzです。
 - 電波の弱いところや雑音の多いところでFMラジオが受信しにくい場合は、「ラジオ切り替えスイッチ」を「FM」に切り替えてください。FMモノラルに切り替わり、雑音や音切れを軽減することができます。

FMラジオを聴く

1. 本体の「ラジオ切り替えスイッチ」を「AM」に切り替えます。
2. 本体の「選曲インジケーター」のランプを見ながら「選曲つまみ」を左右に回し、お好みの周波数に合わせます。
 - AMの受信周波数は530～1600kHzです。



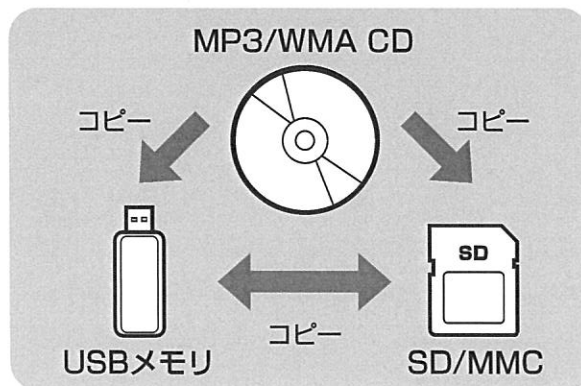
注意

- 受信できる放送局は地域により異なります。
- ラジオモードは録音することができません。

音楽ファイルをコピーする

本製品は音楽ファイルをコピーすることができます。

- ・SD/MMCとUSBメモリは、双方で音楽ファイルのコピーが可能です。
- ・また、MP3/WMA CDから、SD/MMC/USBメモリへの音楽ファイルのコピーが可能です。



コピー元のメディアをセットする

SD/MMCからコピーする場合

- SD/MMCをカードスロットへ挿入します。

USBメモリからコピーする場合

- USBメモリをUSBポートへ接続します。

MP3/WMA CDからコピーする場合

- CDをディスクトレイにセットします。

コピー先のメディアをセットする

SD/MMCからコピーする場合

- SD/MMCをカードスロットへ挿入します。

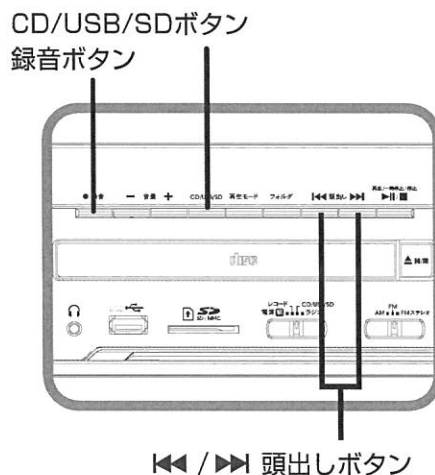
USBメモリからコピーする場合

- USBメモリをUSBポートへ接続します。

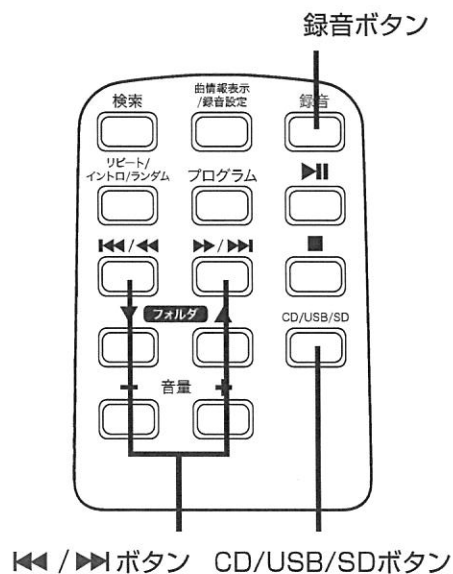
コピーする

1. 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押してコピー元のメディアのモードに設定します。
2. コピー元のメディアから、本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押して、コピーしたい音楽ファイルを選択します。

本体正面



リモコン



音楽ファイルをコピーする

コピーする (つづき)

3. 本体、もしくはリモコンの「再生ボタン」を押してコピーしたい音楽ファイルを再生します。
4. 再生が始まったら、本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押し、コピーを開始します。
5. ディスプレイの右側の数字が「100」になるとコピーが完了します。

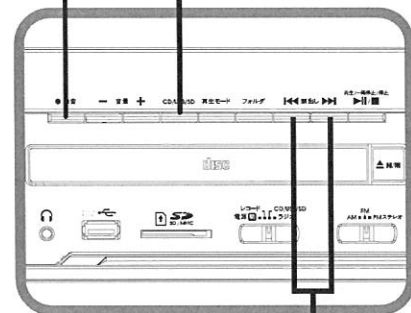
- 録音したMP3ファイルは「FCOPY」というフォルダ内に、MP3ファイルなら「MP3CPXXX.MP3」、WMAファイルなら「WMACPXXX.WMA」という連番のファイル名にて保存されます。
- 再生ボタンを押さずに、停止状態でコピーを開始すると、自動的にメディア内の全音楽ファイルをコピーします。
最初に開始するファイルを選択した場合は、そのファイル以降の全てのファイルをコピーすることができます。
- コピーを途中で停止する場合は、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押します。

MP3/WMA CDからコピーする場合

- SD/MMCと、USBメモリの両方をセットすると、コピー先をSD/MMCかUSBメモリか選ぶことができます。
- 本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押した後、本体、もしくはリモコンの「**◀ / ▶** ボタン」を押して、コピー先を「USB」か「CARD」のどちらかのメディアに指定します。

本体正面

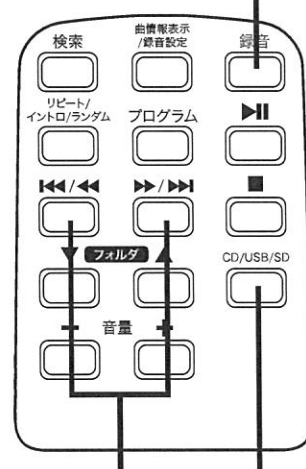
CD/USB/SDボタン
録音ボタン



◀ / ▶ 頭出しボタン

リモコン

録音ボタン



◀ / ▶ ボタン CD/USB/SDボタン

注意

- MP3/WMA CDにはコピーすることができません。
- コピーするメディアの空き容量が無くなると、コピーは中止されます。メモリ残量の確認をしてください。
- メディアのメモリ内の空き容量が足りないままコピーすると、コピーが正常に終了せずにメモリ内にOKBのMP3/WMAファイルが作成されることがあります。不要なファイルになりますので、消去を行ってください。
- 本製品でコピーしたMP3/WMAファイルは全ての再生機器での再生を保証するものではありません。
- コピーを行っている最中に、メディアの接続を解除したりしないでください。メディアや本製品が破損する恐れがあります。

音楽ファイルを消去する

本製品はSD/MMC、USBメモリから音楽ファイルを消去することができます。

音楽ファイルを消去する メディアをセットする

SD/MMCからコピーする場合

- SD/MMCをカードスロットへ挿入します。

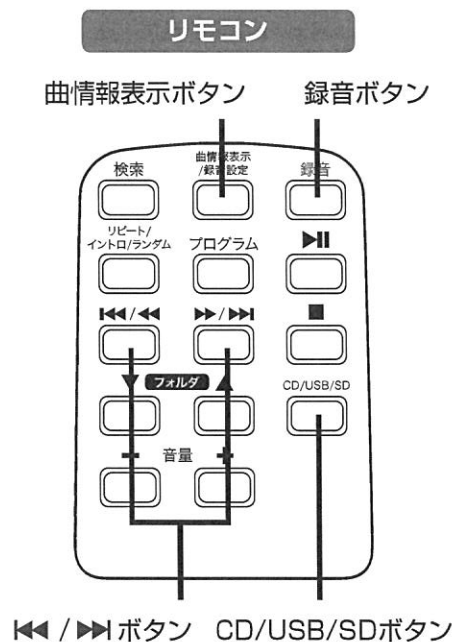
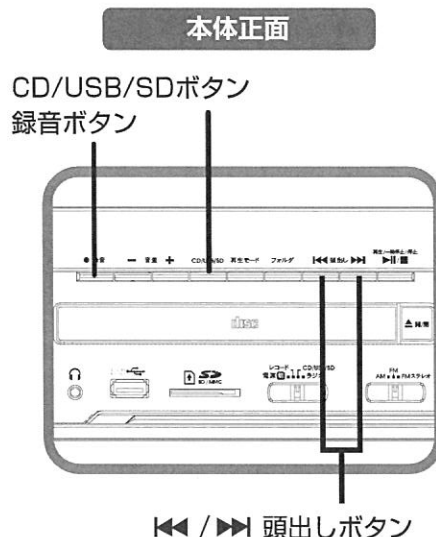
USBメモリからコピーする場合

- USBメモリをUSBポートへ接続します。

消去する

1. 本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押して消去したいのメディアのモードに設定します。
2. リモコンの「曲情報表示/録音設定ボタン」を長押しします。
3. ディスプレイに「DEL-001」（ファイル番号）が表示されたら、本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押して、消去したいファイル番号を表示させてます。
(手順1のあとに、あらかじめファイルを選択しておくことも可能です。)
4. 本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押して消去したいファイル番号を決定します。
5. ディスプレイに「N」（No/いいえ）と点滅表示されたら、本体、もしくはリモコンの「◀◀ / ▶▶ ボタン」を押して、「Y」（Yes/はい）を点滅表示させます。
6. 本体、もしくはリモコンの「録音ボタン」を押して消去を実行します。

- 消去を注意する場合は、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押すか、手順5と6で「N」（No/いいえ）を選択・実行してください。
- 「DEL-001」などのファイル番号が表示されている時に、リモコンの「曲情報表示ボタン」を押すと、ファイル名を表示することができます。



音楽ファイルを検索する

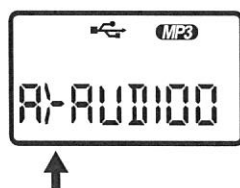
本製品はSD/MMC、USBメモリから音楽ファイルを検索することができます。

検索する

1. あらかじめファイル検索をしたいメディアをセットし、本体、もしくはリモコンの「CD/USB/SDボタン」を押して、音楽ファイルを検索したいのメディアのモードに設定します。
2. リモコンの「検索ボタン」を押すと、ディスプレイの表示が下図のようになります。



3. 検索したい音楽ファイル名の頭文字と、表示されている文字が一致するまで、本体、もしくはリモコンの「◀▶ボタン」を押します。
4. 検索した音楽ファイルの頭文字と、表示されている文字が一致したら、本体の「停止ボタン」を長押しするか、リモコンの「停止ボタン」を押し、ディスプレイの表示を下図の矢印の箇所の向きを逆にします。

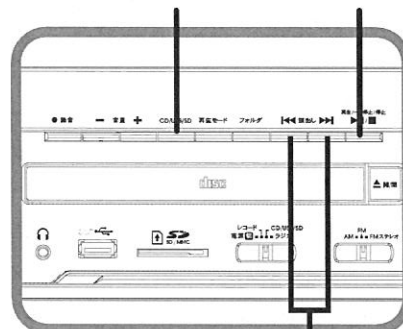


5. この状態で本体、もしくはリモコンの「◀▶ボタン」を押し続けると、頭文字が同一のファイルが順に表示されます。
(ファイル名順ではなく、ファイル番号順で小さい数字から順に表示されます。)
6. 再生したい音楽ファイルが見つかったら、本体、もしくはリモコンの「再生ボタン」を押して再生します。

- 手順5の段階で、頭文字の検索に戻りたい場合は、リモコンの「停止ボタン」を押して手順2に戻ります。
- 手順3から5の段階で、もう1度リモコンの「検索ボタン」を押すと、フォルダ検索に切り替わります。

本体正面

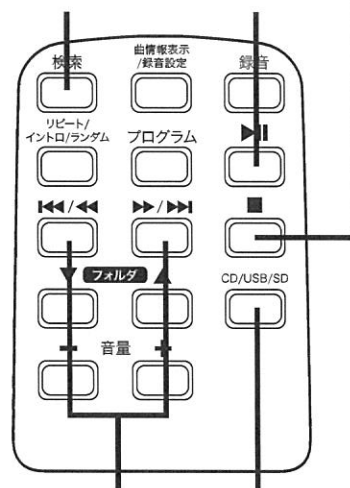
CD/USB/SDボタン 再生/停止ボタン



◀▶ 頭出しボタン

リモコン

検索ボタン 停止ボタン
再生ボタン



◀▶ボタン CD/USB/SDボタン

トラブルシューティング

●故障かとお思いのときは、アフターサービスをご依頼になる前に、次の点をお調べください。

電源が入らない	●電源プラグが抜けていませんか。電源プラグの差し込みを確認してください。
音声が出ない	●電源プラグが抜けていませんか。電源プラグの差し込みを確認してください。 ●スピーカーが正しく接続されているか確認をしてください。 ●音量が最小になっていませんか。音量を上げてください。 ●消音ランプが点灯している場合、消音機能が動作しています。消音状態を解除してください。 ●ヘッドフォンを接続していると、本製品のスピーカーからは音が出ません。ヘッドフォンが接続されていないか確認をしてください。
ノイズが入る	●テレビなどの強い磁気を帯びた機器などの影響を受けている可能性があります。テレビなどの機器と本製品を離して設置してください。
音が飛ぶ	●本製品に振動が加わったり、ディスクに大きな傷があったり、汚れがあったりすると音飛びすることがあります。
再生されない	<p>—音楽CD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ディスクの表裏が正しくセットされているか確認してください。 ●ディスクがひどく汚れていたり、損傷していないか確認してください。 ●本製品に対応しているディスクか確認してください。 <p>—MP3/WMA CD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ディスクの表裏が正しくセットされているか確認してください。 ●MP3/WMAファイル以外の音楽ファイルは再生できません。 ●ディスクがひどく汚れていたり、損傷していないか確認してください。 ●ファイルに拡張子がないと再生できません。ファイルに「.mp3」「.wma」という拡張子を付けて書き込みを行ってください。 ●音楽ファイルが正しく記録されているか確認してください。 <p>—USBメモリ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●USBメモリが正しく接続されているか確認してください。 ●MP3/WMAファイル以外の音楽ファイルは再生できません。 ●ファイルに拡張子がないと再生できません。ファイルに「.mp3」「.wma」という拡張子を付けて書き込みを行ってください。 ●音楽ファイルが正しく記録されているか確認してください。 <p>—SD/MMC</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SD/MMCが正しく挿入されているか確認してください。 ●ライトプロテクトスイッチがオンになっていると再生できません。スイッチをオフにしてください。 ●MP3/WMAファイル以外の音楽ファイルは再生できません。 ●ファイルに拡張子がないと再生できません。ファイルに「.mp3」「.wma」という拡張子を付けて書き込みを行ってください。 ●音楽ファイルが正しく記録されているか確認してください。
再生されるまで時間がかかる	<p>—音楽CD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トラック数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。 <p>—MP3/WMA CD/USB/SD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音楽CDに比べて読み込みに時間がかかります。 ●ファイル数、フォルダ数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。

トラブルシューティング

再生されない	<p>—音楽CD/MP3/WMA CD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●録音することができません。 <p>—USBメモリ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メモリの空き容量が足りないと録音することはできません。パソコン上でファイルの消去などをして空き容量を増やしてください。 <p>—SD/MMC</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メモリの空き容量が足りないと録音することはできません。パソコン上でファイルの消去などをして空き容量を増やしてください。 ●ライトプロテクトスイッチがオンになっていると再生できません。スイッチをオフにしてください。 ●USBポートにUSBメモリが接続されていないか確認してください。 ●本製品はSD/MMCと、USBメモリが同時にセットされている場合、USBメモリを優先します。USBメモリを取り外してください。
FM/AMラジオが聴けない。 もしくはノイズが多い	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナの位置を調整してみてください。 ●コンクリートの壁などで電波が遮断されているとラジオを受信しにくくなります。 ●FMステレオモードをFMモード(モノラル)に切り替えてみてください。 ●近くに自動車が走行していたり、飛行機が飛行していると雑音が入ることがあります。 ●テレビやパソコンなどの機器から離して設置してください。
リモコンが働かない	<ul style="list-style-type: none"> ●電池の極性(+/-)の向きが表示通りに正しくセットされているか確認してください。 ●電池を2本とも新しいものと交換してみてください。(種類の異なる電池を使用したり、新しい電池と古い電池を混用したりしないでください。) ●リモコンと本体の距離が離れすぎていないか確認してください。 ●リモコンと本体の間に障害物があると、リモコンの信号が本体に届かないことがあります。 ●本体のリモコンの信号の受光部に強い光などが当たっていないか確認してください。
外部機器から音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ●外部機器と本体が正しく接続されているか確認してください。 ●外部機器の電源がオンになっているか確認してください。 ●その他、「音が出ない」の項目を参照してください。
本製品が正しく動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ●静電気やノイズなどの影響により、本製品が動作しなくなる可能性があります。電源のオン/オフをしてみてください。 ●もしくは、電源プラグを抜いて、もう1度差し込み直してみてください。
トラックが順番通りに再生されない	<ul style="list-style-type: none"> ●リピート再生、ランダム再生など設定がされている可能性があります。設定の解除をってください。

主な仕様

再生可能メディア	レコード・CD・CD-R/RW・SDメモリーカード・miniSDカード(アダプタ必要) USBメモリ・マルチメディアカード	
録音可能メディア	SDメモリーカード・miniSDカード(アダプタ必要)・USBメモリ マルチメディアカード	
CD	再生フォーマット	CD-DA・MP3・WMA
	MP3再生	ビットレート/8kbps~384kbps サンプリングレート/32~48KHz
	WMA再生	ビットレート/8kbps~384kbps サンプリングレート/32~48KHz
SD/MMC/USBメモリ	再生フォーマット	MP3・WMA
	MP3再生	ビットレート/8kbps~384kbps サンプリングレート/32~48KHz
	WMA再生	ビットレート/8kbps~384kbps サンプリングレート/32~48KHz
	録音形式	ファイル形式/MP3 ビットレート/32・64・96・128・196・256kbps サンプリングレート/44.1KHz
	録音速度	1倍速
レコード回転数	33回転/45回転	
SD/MMC対応容量	64MB・128MB・256MB・512MB・1GB・2GB	
ポート・スロット	USBポート・SD/MMCカードスロット	
ラジオ受信方式	アナログチューニング方式	
ラジオ受信周波数帯	AM/530~1600kHz FM/76.0~108MHz	
ディスプレイ	ELバックライト式LCD	
電源	AC100V 50/60Hz	
消費電力	20W	
実用最大出力	2W ×2	
出力端子	ヘッドフォン端子・スピーカー端子・音声出力端子	
本体寸法	(W)318mm × (D)268mm × (H)170mm	
重量	約3.3kg	
スピーカー寸法	(W)116mm × (D)137mm × (H)195mm	
スピーカー重量	約1.28kg ×2	

■本製品の仕様は都合により記載内容を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

※本製品にはSDメモリーカード、miniSDカード、miniSDカード用変換アダプタ、USBメモリは付属しておりません。

※本製品はコピーコントロールCDなどの特殊ディスクの再生は保証しません。

—商標について

WMA (Windows Media®Audio) は米国Microsoft社の開発した音声圧縮フォーマットです。

WMA (Windows Media®Audio) は米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載のシステム名、製品名及び会社名は、各開発メーカーの登録商標または商標です。

アフターサービスと保証書

保証書(裏表紙)

裏表紙に添付しています。お買い上げ日と販売店名の記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。保証書をよくお読みになり、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間となります。

修理を依頼される時

取扱説明書の内容をご確認いただき、故障が疑われる場合には販売店、またはサポートセンターにお問い合わせください。

- 保証期間中(お買い上げ日から1年未満)の修理
保証書の規定により、無料で修理致します。商品に保証書を添えてお買い上げの販売店、またはサポートセンターまでご相談ください。
- 保証期間が過ぎている(お買い上げ日から1年以上)の修理
修理により使用できる製品は、お客様のご要望により有料で修理致します。お買い上げの販売店、またはサポートセンターまでご相談ください。

補修料金のしくみ

補修料金は技術料(故障した商品の修理および部品交換などにかかる作業料金)と部品代(修理に使用した部品の代金)などで構成されています。

補修部品について

補修部品は部品共通化のため、一部仕様や外観色などが変更となる場合があります。お客様ご自身の修理は大変危険です。絶対に分解したり手を加えたりしないでください。